

(様式1)

## 自己評価票

作成日 平成28年12月21日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873900559		
法人名	社会福祉法人 聖隷会		
事業所名	グループホーム玉里の里	ユニット名	なのはな棟
所在地	〒 311-3433 茨城県小美玉市高崎1824-500		
自己評価作成日	平成28年12月21日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
-----------------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価機関 決 済 日	平成 年 月 日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・事業所は、周辺に田園・放牧地を有しリビングや居室からは紫峰「筑波山」も眺められるのどかで緑豊かな環境下にあります。入所者様一人ひとりの尊厳を大切にし、身体的・精神的拘束のない中で在宅生活時と同じように安心して暮らして行けるように支援しております。</p> <p>・関連施設として、医療法人（精神科・内科）の他、介護老人福祉施設や介護老人保健施設等の事業所もあり、相互連携により医療相談・入所相談が受けられる体制を構築しております。</p> <p>・地域の行事等には積極的に参加しながら、地域に選ばれるグループホームを目指して気軽に立ち寄れる施設造りに努めております。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々と共に、その人らしく暮せるよう独自の理念があり、毎日朝礼にて唱和共有しています。また、玄関口や棟の共有スペースに掲げるなど日々実践しています。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事・催し物等に積極的に参加し、地域ボランティアの受け入れなど連携を深めながら暮らせるよう努めています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やボランティアの受け入れ等、認知症への理解を深めたり地域の方々に力になれることや、相談できる体制づくりなど貢献しています。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催し近況報告や参加者からの意見を頂き、全職員に資料を回覧するなどサービスの向上に努めています。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	小美玉市地域密着型サービス事業者連絡協議会に参加し、他法人施設の随時訪問見学等により「相談・情報交換」を行い協力関係を築くよう努めています。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の指導により、虐待をしないという意識は全職員の中に浸透しています。利用者本位の考え方に基づいて支援を行っており、ユニットごとに日常的に話し合い利用者への支援を行っています。新聞等の報道があったときは朝礼等で発表・注意しています。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の指導により、虐待をしないという意識は全職員の中に浸透しています。利用者本位の考え方に基づいて支援を行っており、ユニットごとに日常的に話し合い利用者への支援を行っています。新聞等の報道があったときは朝礼等で発表・注意しています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政から関係資料を調達し、学ぶ機会を持っています。玄関口パンフレットコーナーに当該資料を整備しています。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、読み合わせを行い、同意の下に署名を頂いている。又、報酬や契約の改定、改正が行われた際には、家族に説明し同意を頂いております。又、退去される場合は今後の方向性や必要サービスなども連絡・説明をしています。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が、意見や要望を出しやすい雰囲気作りをし、面会時や病院受診時の連絡など内容を聞けるようにしておりサービス向上に努めています。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新しい入居者の方が入居する前に、状況、情報をスタッフ間で検討し、かつ、毎月のユニットごとの会議にて意見交換をして施設運営に反映させています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則により、個々の職員の環境に合わせて勤務体制を組んでいます。職員には、公平かつ平等に研修参加の機会を提供し、やりがいや向上心を持って就労できるよう図っています。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催では、上級救命研修会やグループホーム勉強会が開催されています。また 資格取得に向けて支援を行っています。必要に応じて、公平に外部研修を受けられるようにしています。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人同グループ内旅行などで親睦を深め、情報交換等を行いサービスの向上に努めています。法人内、他グループホーム施設持ち回りにて施設見学及び議題を設けた勉強会を実施しております。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人・家族と必ず面談を行い、現状把握と共に、困っていることや、どのようにしたいか等の思いの把握に努めています。又、入所前の施設見学も実施しております。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望・不安を受け止めホーム側の意向を説明し信頼関係作りに努めています。不安を取り除けるように十分に姿勢やサービスについて説明しています。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーとの情報交換や病院との連携をとり、入所者様にとって最大限の望ましいサービスが提供出来るよう対応しています。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者の好み能力に応じた活動を、その時の気持ちを考慮しながら一緒に行っています。また、入居者の方から学ぶこともあり、職員も良い刺激になっています。また、一つ一つの声掛けも大切にしています。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事によっては、ご家族もお誘いし、本人と家族との絆を大切にしています。また、日常の様子などは、面会時や電話などでお知らせしています。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られたり、地域の行事へ参加したり、近くをドライブしたりしています。また、面会・電話・外出・外泊等の制限はせず自由に出来るようにしております。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係をスタッフは把握しており、入居者様が孤立しないよう場面の設定を行っています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のために退所されても、家族、本人のニーズに応じ、洗濯支援等行います。又、退所された方のかぞくとも関係が継続しその後も地域の方としての来訪があります。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時などに、本人やご家族様の希望や意向を聞き、入所後も月々の関わりの中で思いや意向を把握して希望に添えるようケアを行っています。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの家具や、お気に入りの物を持参して頂き、生活環境の設定に努めています。また、家族やその他の関係者から情報を収集しこれまでの暮らし方等の把握に努めています。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のアセスメントシートに記録し、心身状況を把握し体調の変化等を把握できるように努めています。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、各利用者について会議を行い、本人や家族の希望に沿って、介護計画を作成しています。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排泄等を記録し、スタッフ間で情報を共有し、ケアにつなげています。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況にあった外出に対応しています。又、家族の状況に応じて通院介助を、必要に応じて買い物等同行も行っていきます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容や訪問歯科サービスを活用しています。運営推進会議に地域の方々に参加して頂き、情報交換をし豊かな生活を送れるよう支援しています。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様からの「かかりつけ医」の希望を大切にし、事業所の協力医との連携を取りながら支援しています。家族の状況により、依頼があれば職員が付き添い通院の経過を家族に報告しています。緊急時については、入所時に医療機関をどこにするか話し合い了解を得ています。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職員の配置はありません。介護職員が同じ系列の協力病院やかかりつけ医と連携し、状態変化があった時には、すぐに受診できる様にしています。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の状況に応じて、家族や医師と話し合う機会を持ち、早期退院を心掛けています。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、事業所で出来ることを説明しています。必要に応じて新たな支援を検討し、納得戴いた上で医師とも相談しながら推進しています。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体の研修として、全職員が上級救命講習を習得しています。また、施設内に「AED」を設置しております。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練には、運営推進委員の方や地域の方にも参加していただいております。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った声かけや対応の中で、誇りやプライバシーを損ねることがないように留意しております。尊厳を大切に、個人情報の取り扱いについては十分注意して行っております。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情やしぐさから読み取ったり、常に本人に確認を取りながら支援しています。
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間はほぼ決まっているが、本人の状態や希望があればそれに合わせて対応しています。
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容にて希望を聞きながら対応しております。一部の利用者は、本人のなじみの美容室を利用しています。また 室内の清掃・片付けを一緒にしたり支援しています
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体状況や栄養バランスに配慮した食事の提供をし、時々、食事の場所や献立の変更を行い、楽しめるように努めています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取状況を把握し、1日に必要な水分・食事量をバランスよく提供できるよう心掛けています。
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前の口腔ケアは出来ているが、毎食後の口腔ケアは出来ていないこともあり今後の課題としています。毎週月曜日の訪問歯科の受診時にチェックしてもらっている利用者もおります。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握することに努めています。定期的に声掛けしたり、顔色・表情・仕草を観察した支援誘導を行っています。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を管理栄養士の献立により取り入れられており、出来る限り体を動かし便秘等の改善に取り組んでいます。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望に合わせて入浴時間や足浴、シャワー浴などを行っています。また、入浴を拒む方には声掛けを工夫しながら支援しています。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりそれぞれの生活習慣に合わせるよう心掛け、室温や光、音などに配慮しています。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、全職員が把握できるようにしています。変更があれば、アセスメントに記録しています。服薬は、きちんと服薬できているかの確認を行っています。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や、庭野草取りなど、利用者の得意な作業などをたんとしてもらい、張り合いが持てるよう支援しています。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って外出できるよう、家族に連絡して関わってもらったり、職員が連れ出したり、外出支援をしています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の自己管理希望のある方は、家族の了承のもと、管理できる範囲の額を所持できるように支援しています。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>自分で電話できる方は、お任せし、出来るだけ電話の相手を把握できるようにしており、自分で電話できないが、掛け方がわからない方など希望の連絡が取れるよう支援しています。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個々人が快適に過ごせるよう、光や音、室温などに配慮すると共に話し声の大小に気を付けています。また季節の花を飾ったり、行事に合わせた飾り付けをしています。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングには、ソファを置きテレビを見たり会話しやすくゆっくりくつろげるよう配慮しています。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の、使い慣れた馴染みの物を持参していただいています。また、本人の好みに応じて、日用品の買い物にも出かけています。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個人の行動にあわせて、ソファやベッドの位置を工夫し、自由な行動をしながら、安全な生活が送れるようにしています。</p>